

布施工科高校で出前講座

関鉄筋工業協同組合

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）は11月14日（月）、東大阪市の府立布施工科高等学校で同校の建築設備系・建築システム専科の3年生35人を対象に出前講座を実施しました。3時間の講座の間、生徒たちはプロの職人の指導を受けながら、ハッカーを使って鉄筋の結束と組立作業に取り組みました。

1時限目の午前8時40分から始まった講座では、岩田理事長がまず挨拶し、鉄筋工事の役割や重要性を説明するとともに「この出前講座を通じてものづくりのおもしろさや大切さを感じてもらい、皆さんが社会に出て岐路に立った時の一つの判断材料として役立ててほしい」と呼びかけました。また、同校の阿部政之校長も「鉄筋は家の土台やビルの柱など建物の見えない部分に使われるからこそ重要であり、その一つひとつを手作業で進めていかなければならない。きょうはしっかりとポイントを学び、社会に出た時に役立つ授業にしてほしい」と出前講座の成果に期待を寄せました。

この後の講座では、森山直樹技術部会長が鉄筋の役割や構造などを説明したの続き、高さ3.6mの柱4本とこれを繋ぐ長さ4mの梁4本の組立作業に挑戦。生徒たちはハッカーを使って結束作業に取り組みました。また、屋外では関西圧接業協同組合による圧接作業の実演が行われ、生徒たちはガスバーナーと圧力によって2本の鉄筋が繋がる様子を見入っていました。

講座の終了後には、今回の出前講座を担当した技術委員会の委員長でもある戸田裕雄副理事長が「鉄筋は完成すれば隠れてしまうからこそ、皆さんにはその大切さを知ってほしい。皆さんが今後、建物を見た時にその中の鉄筋に思いを馳せてもらえれば幸いです」と講評しました。これを受けて、生徒の代表からは「鉄筋工事は重要な仕事であり、正確に作業することの難しさと技能士の技術の高さに驚いた。今後はこの体験を生かし、それぞれの道に進んでいきたい」とお礼の挨拶が寄せられました。

なお、同組合による出前講座は今年度は6月の大阪府立今宮工科高等学校、10月の大阪工業大学に続いて今回の布施工科高校で3校目となります。

今回の出前講座に参加した組合関係者は次のとおり。

- ・ 岩田理事長（正栄工業）、戸田副理事長（戸田鉄筋）、田浦真一副理事長（田浦）、田中勲副理事長（関西スチールフォーム）、森山直樹技術部会長（城東鉄筋）、恵谷信氏（恵谷鉄筋）、長木鉄次氏（長木鉄筋）、田村晃一氏（田村工業）、福本貴至氏（福本鉄筋工業）、岩田正氏（正栄工業）、山村修一氏（関西スチールフォーム）、鈴木勝則氏（ヤマシタ）、職人2名（恵谷鉄筋、長木鉄筋）。
- ・ 関西圧接業協同組合＝濱野功理事長（新東圧接）、増本一夫副理事長（東亜圧接）、浜崎仁理事（近畿圧接）、藤光勝仁氏（太陽圧接）。

講義状況

